

# 化学科の一世紀と研究所の半世紀

藤永 太一郎\*<sup>1</sup>

京都大学理学部化学教室は創立百周年を記念して来る10月11日に祝賀会を催す。一方財団法人海洋化学研究所は、同じく理学部にあつて昨年創立五十周年を祝ったから、化学教室とその過半を共にした事になる。

研究所は当初石橋教授室をオフィスとして分析化学講座に開設され、その三年後に開設された大学院分析化学及び海洋化学分科と共に三者は一心同体で経過した。

前回は海洋化学研究所の五十年を回顧したので\*<sup>2</sup>今回はその前身ともいふべき分析化学講座の歴史を年表の形で略記することにした。蓋し、大学の歴史は今回別に公刊されることになっていることでもあり、茲でのこの略年表は筆者の知見にもとづくその拾遺のつもりである。

## 分析化学研究室年表

- 大 3 松井元興、第4講座(分析化学・有機電気化学)担任。  
大 11 同、「分析化学講座」新設担任換え。  
昭 8 同、退任(京大総長就任のため)、あと小林松助、佐々木申二兼任。  
昭 11 石橋雅義、同 講座担任。有機試薬、電気分析、海洋化学、放射化学の研究。  
昭 16 ボルタンメトリー(1)電流滴定法の研究。  
昭 20 光吸収分析法の研究(重松)。  
昭 21 (財)海洋化学研究所設立(理学部内 理事長、石橋)。  
昭 24 大学院「分析化学及び海洋化学」分科設置。  
昭 25 (2)示差ポーラログラフィーの研究。  
昭 26 日本学術会議(石橋、2~7期会員)。  
昭 28 IUPAC 総会(石橋、ロンドン)、昭31 IUPAC 総会(同、リスボン)。  
昭 29 (3)電流規制ポーラログラフィーの研究。  
昭 32 IUPAC 国際電気分析化学会議招待(藤永、パリ)。その後 IUPAC 正会員に選ばれ総会出席、昭38(ロンドン)、昭42(プラーグ)、昭44(コルチナ)、昭45(グラーツ)、昭46(ワシントン)、昭48(ミュンヘン)、昭50(マドリド)、昭52(ワルソー)、昭54(ダボス)、昭56(ブラッセル)昭58(コペンハーゲン、総会にてタランタ賞授与)  
昭 34 石橋雅義、定年退官(金沢大学学長)。あと後藤良造、藤永太一郎分担。  
昭 35 藤永、同講座及び分科担任。  
昭 36 日本学士院賞(石橋、海洋化学の研究)。  
昭 39 化学研究室北部構内に移転(分析化学講座と量子化学講座、第1期)。昭40、41年で全講座及び中央部移転完了。  
昭 41 (4)電解クロマトグラフィーとクーロポテンシオメトリーの研究。共同沈殿法の研究(桑本)。ポーラログラフィー国際会議(京都、国際会議場)。  
昭 47 日本学術会議(藤永、9、10期会員)。IUPAC 国際分析化学会議。ICAC(京都、国際会

\*<sup>1</sup> (財)海洋化学研究所。所長

\*<sup>2</sup> 本誌10巻1号

議場) 主宰。

- 昭 49 LVGC・リガンド気流ガスクロマトグラフィーの研究(桑本)、LVICPの研究(同)。  
昭 50 理学部附置「機器分析センター」(センター長、藤永)新設。  
昭 51 国際環境科学会議・HESC(日本学術会議、京都国際会議場)主宰。トレースキャラクター化の研究(科研費、特定研究3年)。  
昭 52 IUPAC Post-Congress Symposium、分析化学(京都、岡崎)主宰。瀬戸臨海実験所長兼担(藤永、退官まで)。  
昭 56 王立協会「最新の分析化学」招待講演(藤永、ロンドン)。  
昭 57 (5)イオン電極ボルタンメトリーの研究。学振、日ソ分析化学シンポジウム(京都、京都会館)主宰。その後、昭59同(モスクワ・キエフ)、昭61(名古屋)、昭63同(タシケント)、昭65同(仙台・桐生)2年毎現在も開催。藤永太郎、定年退官(奈良教育大学学長)。

なお退官後、藤永はボルタンメトリーの研究により、日本学士院賞(昭61)、クルナコフ・メダル(平2ソ連)、ロバート・ボイル賞(平4英)などをうけ、また日本化学会名誉会員に推薦されている。

この間の研究室在籍教官(教授転出先)は嘉儀侠(名工大)、岸春雄(北京師範大学)、松本保(京工繊大)、原田保男(東洋曹達研究所長)、品川睦明(阪大工)、船越音蔵、森井ふじ(岡大農)、上田俊三(金沢大工)、重松恒信(京大化研)、中村舜吉(京大教養)、山本勇麓(広大理)、東慎之介(京大教養)、永井外代士(立命大理)、桑本融(広島女学院大)、伊豆津公佑(信大理)、小山睦夫(京大原子炉)、松井正和(京大化研)、岡崎敏(京大工)、中山英一郎(滋科大)、堀智孝(京大人環)といった方々であった。

#### 主な学術出版書

- 分析化学、上下巻(松井、1918、裳華房)  
電解分析(同、1920、同)  
分光分析(松井、岩村、1931、同)  
定性分析化学(石橋、1941、同)  
定性分析実験法(同、1949、富山房)  
定量分析実験法(同、1950、同)  
ポーラログラフ分析法(石橋、藤永、1956、丸善。初版は1944、共立)  
定量分析実験法、機器編(同、1966、富山房)  
基礎分析化学(藤永、1979、改1994、朝倉)  
琵琶湖の環境化学(藤永、堀、1982、学振)  
海洋化学研究所報「海洋化学研究」(1986創刊、年2回発行)  
Electrolytic Chromatography and Coulometric Detection(藤永、1971、IUPAC)  
Purification and Tests for Purity: Propylenecarbonate, Hexaphosphoroamide and Trifluoromethanesulphonic Acid(藤永、伊豆津、桜、坂本、1971-1980、IUPAC)  
Recent Advances in Analytical Potentiometry with ISE(藤永、1982、The Royal Society)